

# WURC NEWS Vol.48

編集:河内 章(主務)

矢代 貴昭(COX)

## 先週の一週間 第50回

全日本新人選手権大会が戸田ボートコースにて今月16日(金)から3日間かけて開催された。男子舵手付きフォアは大会1週間前にクルー内でインフルエンザ感染者が確認されたため、大会出漕を棄権した。そのため早稲田からは男女計4クルー、総勢9名の出漕となった。結果は上記の通りとなっている。予選を1位通過した女子ダブルスカルは準決勝でスタート直後に腹切りを起こすというアクシデントに見舞われたが、最後まで諦めずに一本一本自分たちの漕ぎを通し2着でゴールした。更に順位決定戦ではインカレ準優勝クルーである日本女子体育大学と白熱した試合を見せ、結果総合6位を勝ち取った。一方男子シングルスカルで出漕した吉原(スポ1)は準決勝、石黒(スポ1)は敗者復活戦での敗退という悔しい結果に終わった。勝利という結果には結び付かなかったが、二人のもつ能力は非凡なだけに、これからの冬のトレーニングでの巻き返しに期待したい。

男子	舵手付きフォア	棄権
	シングルスカルA (吉原)	準決勝4着
	シングルスカルB (石黒)	敗者復活3着
女子	舵手付きクォドルプル	優勝
	ダブルスカル	6位

## W4×+史上初の4冠達成

「絶対に優勝する。」「連覇を繋げる。」この想いは新人女子舵手付きクォドルプルクルー結成当初から揺らぐ事は無かった。今回の優勝で同種目大会7連覇。更には軽量級・インカレ・全日本と併せて「全日本タイトル」レースの4冠(グランドスラム)も同時に達成した。これは女子メイン種目としては日本ボート界初の快挙である。先月末まで各都道府県の代表としてクルーの大半が国体に参加していたため、満足のいくクルー練習の時間は取れなかったが、それでも優勝できたのは、彼女達に優勝・連覇に対する強固な意志があったからと言える。予選では2着明治大学に10秒差をつけてのトップタイム



早稲田の次世代を担う新人対校W4×+

ム通過を果たすも、決勝ではスタートから2位立教大学に1艇身差を保たれながら追いかけるという嫌なレース展開。しかしながら、「心強い仲間がいるから安心していられた。だからどんなに立教が詰めてきても、最後まで落ち着いて漕ぐ事が出来た。」と3番の越智(スポ1)。コックスの市川(スポ1)も「クルーを信じていたから、特別なプレッシャーは無かった。」とクルー全員が自分達の勝利を確信していた様子。来年の目標をバウの原口(スポ1)に尋ねてみると、「史上初の2年連続グランドスラム。」と、既に視線の先には揺ぎ無い目標があるようであった。まだまだ早稲田女の快進撃は止りそうに無い。



決勝レース ゴール直後のW4×+の様子

## 今週の狙い

全日本新人選手権大会の終了をもって2009年シーズンの幕は閉じた。ボートのオフシーズンに入ると同時に、部は2週間のオフ期間に入る。選手達はゆっくりと身体を休め、1年間の疲れを取る。オフ期間が明ければ長い冬が始まる。「冬を制する者が夏を制する」ともいわれるほど冬場の練習は大事になってくる。次回全体集合日は10月31日(土)。そこからまた新しい「早稲田大学漕艇部」としての1年が始まる。まずは11月3日(火)にエルゴ2000mT.T.が行われる予定だ。